

〈自殺バージョン〉（希死念慮を抱えて傷を舐め合いでいたネットの友達と一緒に生れようと約束した日の後）

う、うう……

うわああ、うつえつぐ（嗚咽）（唾を飲み込む）

なんでえ…なんで死んじやったのう…う?

なんで、（涙を飲み込む）

だつてだつてさあ、約束したじyan。

もうちょっと生きてみようつて、がんばるーつて約束したじyan。

うなづいてくれたよねえ、ねえう…!

うそつきい、うそつき!ばか!! 《急に顔を上げる》（強めの言い方）

《また伏せる》

なんでだよう…私との約束なんてビードもよくなつちやうくら死にたかったの?

相談してくれれば、

私、ちゃんと考えたし言つたよ、ばか

もう聞いてくれないじyan

聞こえてないんだもん

答えてくれないんだもん

どれだけ言葉を尽くしたつてさ、

いまさらぜんぶ、無意味になつちやう

聞いてよ、答えてよーううう……ひどいひどいよおー（ひとしきり泣く）

……そつか、最初から聞こえてなんかいなかつたのかな ぐす（鼻を啜る）

《ここから自嘲的な感じで》

私の声なんか聞こえてなくつてさ、ずっと、閉じた暗い場所にいたんだるうね

私がどんなに言つたつてそれは結局おためごかしで、（息を飲み込む）

世界の都合のいーぶぶんだけ取り繕つて渡されてるつて感じでさ!

（涙を飲みこみながら話す、最後ちょっと笑つてる 含み笑い）

自分が見ている現実なんかさ、ぜんぜん、無視されちゃってるって、おもってたの? (一田涙が止まる)
そうかな、そうなのかな。
わからないね、もう一生。

ひどいなあ。ねえ。信じてくれなかつたの?

世界に絶望してるからわたしのこと尊重しなくていいとも思つていたのかな。
取るに足らない、世界の話、ではなかつたんだろ? うね

だつて死んじゃつたんだもん

世界は自分の中で大きかつたんでしょう、なんだかんだ言って

ほんと、ひどいや。

ああでも、ひどいのはわたしもおんなんじか。
おんなんじなんだろ? うね

私に見えてる世界を押し付けて、救つたフリして。救われたふりをして。
結局決めるのは全部、自分なんだからさ。

じゃあわたしと笑い合つたのもぜんぶ嘘だつたのかな。
そうすると世界で生きていてもいいような気がするから?

生きていくために仕方なくしてたの?

もう、それも、つかれ、疲れちゃつてたのかな?

(また棺に突つ伏して泣き始める)

なんにもつ、なんにもわかんなかったよ!

何もぜんぶもうわからない

ばか! うそつき!

うううう……

うえつ、うぐう、はあう……うう

かなしいよ

いなくなつてかなしいよ

すきだよすきだつたよ

くだらない話してわらいあいたかつたよ
もつともつと、いろんなことしたかつた

傷の舐め合いだつていじやない

それで救われるんなら正しかったんだよ！救われてよ
どうしておいていくんだよおう…！

ひどい、ううつ…うえ、なんでえ…

私にだけ傷跡残していくなんてあんまりにも都合がいいじゃない
復讐のつもり？

私たち共犯者じゃなかつたの
一緒に世界を裏切つてくれないなんて酷すぎるよ
くやしい

ばかあ…

だいすきだよ、大好きだつた

ぜんぶ過去にしたのは私のせいじゃない

許してなんかあげないよ

ばか、ばか、ばーか…！

あんたなんて、あんたなんて、うう

わたしの気持ちのあつたかいとこだけ吸い取つて
勝手に気持ち良くなつて…！

満足したんでしょ！満ち足りちやつたんでしょ！

だからもういいやつて、ぜーんぶ勝手に思い込んだんでしょ！
ばか！いきてれば、いきてさえいればわたしの感情もつと

もつとあげられたのに、あげたのに

ばかあ…つ。

（大きく深呼吸をする）

そんな、それっぽつちで満足だつていうんなら、ゆっくり待つていいといいよ
骨に変わつて灰になつてぜんぶぜんぶ君の思い通りになつたあと

ゆっくり私の中で死んでいくのを待つていて

あなたが灰になるさかり、たっぷり深呼吸をしてあげる

人は二度死ぬんだ

一度目は、肉体の死。いまみたいにね

二度目は、この世の人みんなに忘れられたとき。

だから今度死ぬときは私と一緒に死ぬの。

〈胸に手を置き、深呼吸をする〉

ふふ、ふふはっははは！　！　！

うえう、つく

でも、声はきこえないんだ？　…

うつうう…　〈すすり泣きが続く〉

しぬなんて、死ぬなんてひどい口オ

ぜんぶおぼえている

こえもかたちもなにもかも

でもそのぜんぶ、理解なんてできない

私たちは別々のいきものだった

だれしも傷つき心を痛めてる

おんなんじ傷は持てない　違う皮膚を持ち細胞を持つ

たとえ同じナイフで切られようとも

完全に同じ傷など持つてないんだ

ああ、あう、かなしいねえ、かなしい

いまこうして呼吸してるのがかなしい

でも私が死んじゃつたら

また死んじゃうじゃない

私の命ある限り、私と一緒に生きていくの

それが約束破った罰

罰だよ……

くるしんじゅえ

ばか、かつてに、かつてに置いてくの全部停めちゃうの
幸せになつて

置いていくなり幸せになつてよ

でもね、でも

ね、また会うの、何度も夢の中で

私たちは

きっと変わつていくでしょ

それは劣化じゃない

成長なのだから、私の中で生き続ける…

だから、だからまたねええうわああ
泣く…ゆつぐつフェードアウト

葬式男?女? 葬儀屋さん

(火葬されるまでの時間を、葬儀屋と過ぐ)

私があなたを燃やし尽くす準備ができるまでの時間、そばに居させていただきますね……

ふふ、静か……

遠くでは太陽みたいな炎が箱の中で誰かを焼いているのに
どんな日だって死ぬのに最良の日、生きるのに最良の日
あなたの人生からすればほんの刹那の、モラトリアム

死ぬとき最後まで残っているのは聴覚らしいですね。ね、聞こえます?

聞こえてたらいけないんですけど、うふふ

生きるって騒がしいですね

最後くらい静かな時間を貴方にあげることが、この世界で肉体のある貴方に直接できる最後のことですから
あ、だまりましょーか

あー、雨が降ってきた 天気予報、外れたなあ

(雨の音)

ふふ、空があなたのために泣いている、というのは少しメルヘンですかね
いちいち空が泣いてくれていたら世界はもう今頃悲しみに飲まれているに違いありません

…生前のあなたに会えたらどれだけ良かつたでしょう
綺麗な死顔、と言つてもいいのでしょうか

今まで見送らせていただいたどんな方より美しいですよ

美しさ、というのはあなたの努力です

たくさん頑張ったのでしょうか

あなたが知らないうちに きっと、たくさん

わたしはどれだけ願つてもあなたの表層、外側の、縁取りにしか触れることができない

人は魂を愛されたいとよく願うでしょう?

そして、それを本質だという。

肉体はただの入れ物だと言いますね

でも、肉体だつて確かにあなたの一部だつたはずだ

あなたはどちらをより愛されたかったのでしょうか

今となつては私たちはもう、分かり合えない関係ですから

表層だけでも、愛させてください

葬式は人生の採点だという方がありますが、わたしは少し違う気がします

葬式というのは一つの区切りに過ぎないんです

日々は連綿と続き、沢山の関係性の交差で成り立っていますよね

その関係性が人である場合だけが全てではないなあ、と私は思うんですね

たとえば、草とか猫とかネジとか…

なんでもいいんですよ

日々を當む中に心の中に組み込まれるものが人である必要なんてどこにもないんです
誰も人生の答え合わせなんてしてくれません

あなたがいきていたとき、幸福だと思える瞬間が少しでもあったのなら、かいわいだというだけです。
これは祈りです。すべて、あなたのための……

(鈴がなる)
あ、焼却炉が空いたみたい
それじゃ、さようなら。
もし今度会うことがあつたら……
(ちょっと悩む)

これは呪いかな、祝福になるのだろうか?

…とりあえず今はあなたがただ安らかに眠れるように祈ります
灰となつたあなたは、そのうち自然、海にも草にも、わたしとも、境目なく溶け合い、分かれ合えるでしょう
形を失うということはなにも不幸ばかりではないのですよ
それでは、さよなら。（優しくにこやかに）

〈飼つていた猫〉

にやー…にや…
にやー。にやー[。]
あ、いた
よ…つと！

にやー?

にやんで箱になんか入つてんの?

いつも俺が入ると怒るくせにさ

おまえも箱の良さに目覚めちゃつてさ!

気持ち良くなっちゃつてずりーの!

あ、でもおれのいばしょはやんねーかんにや!

にやあお前、お前く

にやんか知らない匂いするし

居心地悪いんだけど

お前みたいにや奴ら ゼーいん

似たよーな服きてるし

区別つかないよー にやーお

うわ、にやにおまえ、

牛乳みたいに白い服

初めて見た

汚れやすいーつていつて

ふだんきねえじやん

近づくと怒るじやん

きょーはおこんねーの?

まつしろ

しるーい

ふうん……ふふ

ふあーはあ

にやーぐ

にやあ暇なら遊んでよー

あ、そ、べ!

(びょん、と跳ねて棺の中に入り込む)

くんくん、うへん

はあ

わ?

んんん~?

せんせんうごかねえの?ニヤー?

ん~?

ん~?

ぺち、ぺち

うーん

べる

こしょこしょ

こしょこしょ~!!

う~ん?

にやああ?くすぐったがらねえの?

つまんねえじゃんかよ

いつもは自分からベタベタ触つてくるくせにさ

なんだよ、まだ怒つてるの?

こないだひつかいたのは悪かつたって

いくかげん返事してくれよう

なあー、なあつて

にやー

にやー!

にやー!!!! (だんだん強く)

どうしちゃったんだよ~..

俺なんかしたのかなあ

ねえあそぼ

もう引っかかるしなんかやってるのも

邪魔しねえから
なあにやあ！

に
や

(頬擦りしてたところを引き離される)

あつにやにすんだおまえーーー！

ノシツトシネス!!

にや一

たすける！たすけるよー！おまえいつも俺にほーずりしてきたくせに！

むしかよ！ひでーの

ハカセ

またたび出しても負けてヤンねえんだからにゃあ！

「フードアウト」

(さみしげ、冷静に)

暗い箱ん中に入れられて揺れて、ずいぶん経つたにやあ
それなのに、あいついないし
明るくなつて下ろされたのは、しらないところ
あいつの家より広くて、綺麗で、でもあいつがいない

知らない家…：

あいこに？あいこに帰ってこれえの？

俺のこと捨てたのかにやあ
にや、信じない

なあお前の声で、名前を読んでくれよう
寂しんだよう
にやあ…

何年も生きている口り婆妖精魔法使い師匠 中学生くらいの見た目

（クールぶつた感じで）

ふん、使い魔に呼ばれてきてみれば……
ようやく死んだか

わたしの工房を出て行つて

そんなに時間が経つていないうに思うがな

ほう：

完全に息の根が止まっている

ほんとうに、死んでいるのじやな……う
つは、まずは魔法をかけなくては

〈クルトゥール、サルール！〉

おまえに、初めて教えてやつた花を降らせる祝福の魔法じや
シンプルじやがわたしが一番すきな魔法じや

おまえも好きだつたな

花は良い

悪いものから身を守つてくれる
死というのはいわゆる穢れに属するからな

まずは場を清めんといかん

そういう意味でもこの魔法は有用だというのに、おまえは美しいからといひ理由でよく魔法花を作つておつたな
う 使者には安らかな眠りが必要じやからな
はあ、長い暇つぶしもこれで終わりじやな
なかなかに楽しませてもらつた

人の子と関わるものこれで终いかな
ほんの、ほんの刹那のことじやつた

けれどもおまえのこともう少しだけ覚えておいてやる」とにした
ざつと、そうだなおまえの時間で200年ほどじや
うれしいじやる？

この高名な魔法使いのわたしの素晴らしい名前に

おまえの名前は刻まれているんじやぞ

わすれてなんぞ、やらんぞ

天才の名折れじやからな！けつしておまえのためじやないぞ！

さて、と、そろそろ人の子の慣習に則つて火葬してやるう

ちゃんと墓も作つてやるからな わたしの弟子だからな！ちゃんと、ちゃんとやつてやる
墓を作るなんて、魔法使いではなく人の子のやる事だがな

おまえは人間だつたから、帰る場所があるというのだが、一緒に止まるのが喜びなのでありつ？

ふん、それじや、最後に顔を見せる

わたしを見つめていたその瞳を、魔法を使つていたその手を もう一度よく、見せるのじや！

ふふ、ふつう

めは、もう、あかない（涙が混じり始める）

こんな、こんなふうになつて なにも変わつていないうに見えてこんなふうに、変質していたのか
魂がもう、どこにも、どこにもない！

わたしは信じたものがもうどこにも……

お前はもうどこにも……

うつ……うつ（堪えていたものがあふれる）

うわああああん！（こゝから全体的に涙まじりに）

あのときと、おんなじ、やさしい顔してゐる……

すまんなあ、すまんなあ

わらつて、見送つてあげたいな、つて

思つていたのだがなあ

うまく、いかないものじやなあ あは、は

よーく眠つてゐるようになか見えんのじやがなあ

ふ、ふふ なつかしい

よく一緒に昼寝、した、なあ

寝つ転がつて、星空見ながら

あつでも眠つてゐからつ、あつう、

今は空、見えないのじやるうか

まぶたの裏側、ゆめの、ゆめの中なら

ぜんぶ、自分のものなんじやから

きつと綺麗なそらがあるんじやるうなあ

おまえの、おまえの魂は空を見ているんじやるう？

しばらく会わない間にこんなに大人になりおつて
知りたかったのう、どんな空を見てたのか

また、語り合つたかった

ぐつ、うう…ああ

あつああ

わか、わからない

どうしてもつと話しあなかつたのか

なんで、なんでじやるう

うう、またすぐ余れるつて

一緒に空を見ようつて

ああ、うつ

くあ：あう

約束だけが残つた

わたしも、残つちゃつた

いつもわたしは置いていかれるのじや

う、うううぐ

お前が、羨ましいよ

おまえはわたしの、たいせつな弟子じやつた

はじめてで、最後のかわいい弟子じや

ふん！

残つた思い出、全部独り止めしてやるんだからな！

忘れてなんぞやらんからな

ああ

今日の天氣はとつてもいいぞ
シャボン玉、飛ばしてやる

昔おまえとよくやつた、魔法でもなんでもないあの虹色の玉をたくさんたくせん浮かべてやる
気持ちを込めて吹いてやる

きっと空まで届くから

おまえのとこまでどどくから

ハハわああああああうう… (轟き泣く)

フウ…うつ、ん。

取り乱しすぎたかのう

さて、そろそろ燃やしてやる、かの

(しばしの沈黙)

うう…うわあああ！

やだ…やっぱりやだ！別れたくない！

おまえのことゾンビにしてずっと一緒にいたいのじや！

ばか！なんでしゅんじや！

いつもそうじやおまえらは…ばか！

ばかじや…わたしもおまえも本当に。

禁忌魔法でお前をゾンビにしたって魂がおまえじやないなら、もうおまえじやないのじや…
それなら人の子の師匠の魔法使いとしても、おまえを燃やしてやるのがわたしのすべきこと

ぐ、う…いや！いや！許さんぞ

大事なお前を燃やしてなんぞなるものか

うあ…やっぱり人間ってひどいこと考えるものじやな

魔女裁判も人を燃やすんじや

むかし、教えたな？ 私の姉も燃やされた

でも葬式の火は祈りなのじや

葬式は残された、わたしのためのものじや

わたしがおまえを、愛していたことを確認するものじや…

ううでもやっぱり火はいやだ！

そうじや！私が魔法使いのための葬式をしてやる！

今考えた！この天才魔法使いの私がお前のために考えてやった

普通の魔法使いは死ぬと自然と砂に変わってしまうからな

葬式なんぞ、したことがなかった

だからこの魔法で魔法使いとして初めての式を開いてやる…

やっぱり私は天才じやな！

かんしゃするのじゃぞ～！

やさしく痛みなく魔法で終わらせてやる…お前のための祈りじゃ
この魔法はお前のために今作った。天才じゃからな！多分これから先、口にすることはないんじゃね？……（慈しむよつに）

〈……サトウオール、ミュウルクウォール〉

おまえはゆつくり、宝石になつてゆくのじゃ

掌サイズの美しいもの

お前は美しかった

見た目、ということではない

そんなもの何百年も生きてればどうでもよくなる

お前の無邪気な瞳、とても好きじゃった

いつまでも、お前のために祈つていろのじゃ……

うわーーーん！…やよなり…じゃ…

私の魂がそちらにいくまで待つておれ

なに、すぐじゃ！

数百年生きてる私がいつんじゃから間違いない！

だから、泣くんじゃ無いぞ（泣い聞かせぬよひに）
(涙を飲んで一呼吸)

〈クルトゥール、サルール〉！

この大魔法使いの大いなる祝福を、おまえに！

よく田舎のベンチでバスを待ちながら一緒に会話していた東京から引っ越してきた文学少女による葬式（葬式はやつたが知り合いではなかったので葬式には呼ばれなかった）セミの声重ねる　バスで少女はちよつと離れた高等学校に行くので、これは朝の話

あの人、今日もこないなあ
おすすめの本教えてくれるって言ってたのに
それについてもあつついなあ
でも自販まで遠いし歩くのやんなつちゃう
東京みたいにコンビニないもんな

田舎つて大変だー

まだ慣れない

スマホも3Gで大抵低速だし独り言が増えて困るよ

あの人気が早く来ないと不審者になっちゃう

今日はよく晴れてる 雨でも降れば涼しくなつて良いのに

あの人言葉をあてにして新しい本も持つてないしな

久々に掲示板でもみようかな

よつと（ベンチから立ち上がる）

なにか知らないことはあるかなーと

あ、真新しい訃報が一枚 うえ他のは虫食つて読めない
ま、限界集落とは行かなくても老人多いもんねー 新陳代謝ー

どれどれ 名前はつと、え・・・

こ、これあの人じyan

名前数回しか聞いたことないけどきつとそ�だ
年齢も、多分あつて、え、し、死んじやつたの

そうか死んじやつたんだ

え、いつ

え・・・お葬式もう終わつちゃつてるの

私、呼ばれてない

いや、そつか

フツーバス停で会話するだけのにんげん葬式に呼ばないか

ああでも私、悲しいんだなあ

友達居なくなつちゃつた

気ままに向き合える人によつやく出会えたと思つたのに
居なくなつちゃつた・・・

あーもうー セリフわああい！

感傷にも浸れないよおお！

田舎って世間が狭いっていうけどそうでもないんだね
勉強になった

でもほんとはあの人と本について語り合って、
どーでも良いこと現実に差し障らないこと学びたかった
どんな本貸してくれるつもりだったんだろ

知りたかったなあ

でも家も知らないんだ

あ……もうすぐバスが来る

(かけてゆく)

一緒に読んだ動物たちのお葬式の話！

私の好きな話、大切な人の未来を思つて花を川に流すの
花はいい香りだから間を退けるらしいし

う、ごめんなさい でも大切な友達のためだから許して

(ブチ、花をもぐ音)

あなたのおしまいが、始まりが少しでも彩にあふれますように (クラクション)

・・・あバス来ちゃった

それじゃまたね、つて居ないんだよね
うーん

現実感がないな

草葉の影に隠れてるんでしょお

ふふ、なんてね

朝だし出てくる時間じゃないよね

夕方、逢魔時帰つてきたら会つてくれる、かな
友達に夢見るくらいいよね

おすすめの本くらい教えてよ、ケチだな
いーよちゃんと友達つくるよ絵も大切な友達なのは
変わらないから！

じゃ、バイバイ

運転手さん。お待たせしました
お願いします

(クラクション)

葬式前トラック

自殺サークル

うん、約束だよ 一緒に行きたいつね ふふふ。指切つた うふふ! 友達と約束したのなんて初めて……。初めての友達、初めての……約束。

ネ口

にやあ——おかれりーきょーははやかつたにやあーじはんじはん、はやくあそべーにやつ?—葉っぱが生えた器落としたのばれちゃつたにやあーじめんにやわーじー えぐく、怪我はにやいよひ。

るりばばあ

そうか、出ていくのか。まあ? お出もーそこそこ力がついてきたしなあ いいんじやないか、止めはせんぞ 勝手にいくが良い ……でも、いつでも帰ってきてよいんじやぞ ……いや、なんでもないつ! どうでも行けつーおまえなんかもう、し、しらんのじやからなあ!

そうぎ屋さん

サボテンさん、おはよひじやこます 今日もいい天気ですねえ、さ、仕事にいきますかあ ふああ、ねむい 途中で缶コーヒーでもかいましょうかねえ それじゃあ行つてきます

バス停 初対面

あ、え、こ、おはよひ、じやこます はじめまして、ですよね そうですね、このバス停わたしとあなたしかしませんものね、誰かにフレンドリーに声かけられるのって、なれなくて…… え? です、わたしこの街に先日引っ越してきたばかりで…… え? なんの本読んでるのか、ですか。

えーっと…今は、「風立ちぬ」…あ、ちがいますよー!病気の療養とかでここにきたわけじゃなくて、単に親に付き添つて…あ、あなたも本持つてますね なんて本ですか?